Information

花とみどり

埼玉県のマスコット「コバトン」

Vol.69
2016.2.18

KAWAGUCHI i-mono 認定

安行四季彩マット

樋口早百合撮影

植栽基盤による人工地盤緑化

川口市高齢者総合福祉センターサンテピア屋上

安行四季彩マットは、ビルの屋上や駐車場、ベランダなど、
土のない所を緑化する県が開発した技術です。

彩の国
埼玉県花と緑の振興センター

所長あいさつ

チャレンジ！新たな取組満載

昨年は、農政では今一つ取扱いが不明瞭であった「植木」が、「花き振興法」の中で、「花き」として明確に位置付けられ、国産花植木の一体的振興等、植木・緑化産業界にとっても大変明るいスタートとなりました。さらに2017世界盆栽大会、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催と明るい題材が続き、これらのビッグイベントを契機として、温暖化に対応した都市緑化を拡げる好機と捉えていきたいと考えます。

目下、センターではオリンピックが夏季に開催されること並びに、会場の多くが都市部にあることを念頭に入れ、高温期に適する新技術、商品開発のため、①高木植栽に対応した安行四季彩マット、②低コスト化を目的とした根域制限マット、③コア抜き舗装面簡易緑化等の新たな都市緑化技術の開発と実証に取り組んでいるところです。また県内で需要拡大が見込まれる有望樹種を用いて、五輪を強く意識するとともに、車イス・子供目線で楽しめるコンパクト花植木のプロムナード「Welfare Garden」を造成しました。さらに本年度はＡＰＧ分類に対応した園内樹名板設置に着手し、見本園としての機能の充実を図るなど各種取組みを推進しています。

今後も，コープみらい等との包括的連携協定に基づく共助による緑のマネージメント活動、地域の障がいのある方が働く支援施設の園内体験活動や安行オープンガーデン活動を一層助長し、緑化産業と街興しが一体となった取組を積極的に進め、生産振興に繋げていく所存です。

◀2015.11.3
コープフェスタに初出展
（活躍する園芸ボランティアの面々と）

2015.10.10▶
安行中学校作成看板
「オープンガ-デン
戸塚安行駅前展」

生産者紹介

安行小梅園　園主

小櫃 敏文 氏

江戸時代からの植木産地・川口市安行で「安行小梅園」の園主として盆栽の生産・販売に励むかたわら、数々の役職を持ち盆栽業界や地域において幅広く活躍中です。

1 経営・技術の特徴

伝統的な松柏類、花物盆栽代表格のサツキ、モミジ・ケヤキなどの雑木類と、多種多様な盆栽の生産・販売を専門としています。国内販売のみならず、EU諸国等海外輸出に対応した生産により、幅広い販路を持っています。年間2,000から3,000鉢の盆栽が海を渡っていき、多くの愛好家を楽しませています。

特徴的な技術としては、実生や挿し木による素材からの生産、接ぎ木や取り木などの独自技術を駆使した高品質盆栽の生産、樹形の崩れた盆栽の有用部分を活かした再生など、匠の技を駆使して小品盆栽から寄せ植え・大型盆栽まで、手間と年月をかけて丁寧に仕上げています。独自のセンスとそれを成せる技術の融合により、すばらしい作品が生み出されています。

2 輸出振興と啓発活動

「埼玉県輸出盆栽研究会」は、埼玉県産の輸出用盆栽の品質向上及び会員の資質向上を通じて、盆栽の輸出振興を図ることを目的として結成されました。この、第3代会長として平成18年から現在に至るまで、様々な会の事業に取り組んでいます。外部講師の招へいによる研修会の実施、平成21年から3か年の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」では、中心となって線虫対策の実証を行いました。ジェトロによる海外バイヤーの招へいを活用し、県産盆栽のPRと販路拡大を図りました。また、現在、農林水産省が実施している「輸出戦略実行事業・花き部会」の委員として、輸出拡大方針への提言をしています。

各種盆栽団体の役職を持ち業界の発展に尽力するかたわら、ＪＡあゆみ野安行園芸センターでの地元生産者による直売組織の運営をはじめ、地域においても地元農業の発展に貢献し、また教育の場でも盆栽教室をはじめとした各種「緑育」に携わっています。

さらに今年度は、当センターの緑化講座と共催で、在県の外国人を対象とした「盆栽教室」を実施し、来る２０１７年世界盆栽大会や２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックなどの国際的なイベントを控えて、日本の伝統である「盆栽」の輸出振興ＰＲに力を注いでいます。

オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み（夏を彩る花植木創造・需要開拓事業の実証）

東京オリンピック･パラリンピック開催を機に、大規模なインフラ整備が計画されるのを契機に、その機を活かして、埼玉県産の植木類消費拡大とセンターで開発してきた都市緑化技術の3つの取り組みを紹介します。

❶高木植栽「安行四季彩マット」の商品化

アスファルト等人工地盤上でも、移動可能な「高木マット」を設置し、簡易な方法で、自然な木陰による涼しさを創り出すことができる容器開発と商品化に向けた取り組み。

❷根域制限容器の開発と栽培管理方法の確立

一般消費者向けの植栽コンテナを目的に開発した「根域制限容器」により、倒伏防止と連結方法の多様性による利用方法の汎用性と、中低木を植栽することにより、高木マットの樹間緑化の一役を担う取り組み。

❸コア抜き緑化技術での、耐暑・耐乾性樹種の栽培実証

アスファルト等人工地盤の多い都市部での緑化に効果を実証するため。小面積のコアを抜いて樹木を植栽するだけの省力緑化の実証。

高木植栽
「安行四季彩マット」

コア抜き緑化技術

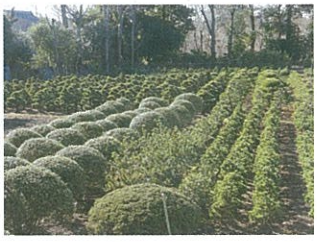
緑のコラム　花きの振興に関する法律（花き振興法）について

花き産業と花きの文化の振興を図るために、花きの振興に関する法律（花き振興法）が平成26年6月20日に成立し、同年12月1日に施行されました。その中で花きは次のように定義され、その位置付けが明確になりました。花きは観賞用に栽培する植物全体を意味し、切り花（キクなど草花の切り花の他にヤシなどの切り葉、枝物を含む）、鉢物（草花鉢物の他に観葉植物や盆栽を含む）、花木類（庭木などの地植えにする木本植物）、球根類、花壇用苗物、芝類（造園用等に養成されているもの）、地被植物類（笹や蔓性植物など地面や壁面を覆う植物）などを含みます。

花きは食用農産物とは利用場面が異なるため、育種者、栽培者、市場流通関係者及び販売者からなる異業種が連携した花き産業として成立しています。また、ファッションとしての性格が強いことから、消費者の関心を繋ぎ止めるために農産物の範疇を超えた売れる商品を企画することが強く求められます。一方、花きは古くから日本人の精神と深く結び付き、伝統行事、絵画、茶の湯、生け花、庭園、衣装のデザインなど日本文化の中に色濃く反映されています。

このような状況下で、花き振興法は国、都道府県及び花き産業関連団体の連携の下で必要な施策の立案と施行を求めています。これを受けて、埼玉県は「埼玉県花植木農業振興方針」を見直すことにより対応することとしています。

今後、開催される世界盆栽大会（2017年）、ラグビーワールドカップ（2019年）及び東京オリンピック・パラリンピック（2020年）など世界各国が注目するビッグイベントは、日本の花きを文化とともに世界に発信し、花きの振興を図る大きなチャンスです。当センターでも微力ながら尽力して参ります。



園内の植栽樹木の紹介③
―園内植栽樹木の紹介（ナツツバキとセイヨウニンジンボク）―

当センターは、開園時より植木の見本園として多くの方々に利用されてきました。今回は、2020年のオリンピック開催に向けて夏を彩る植物の中からナツツバキとセイヨウニンジンボクを紹介します。

■ ナツツバキ

ツバキ科ナツツバキ属の落葉高木で、夏を彩る花としては、初夏の6月～7月初旬にかけて5弁の直径5cmほどの白い花を咲かせ、朝に開花して夕方には落花する一日花です。別名「シャラノキ」と言われていますが、これは釈迦が2本並んだ沙羅（ナツツバキとは別種）の木の下で入滅したことから、沙羅が仏教の聖樹となり、沙羅の木の代用として、ナツツバキが各地の寺院に植えられたことに由来しています。

ナツツバキ

■ セイヨウニンジンボク

シソ科ハマゴウ属の高さ3～6mの落葉低木で、夏の終わりごろ（8月中旬）から、淡い紫色や白色の円錐形の房状の花を咲かせます。南ヨーロッパから西アジアにかけて分布している樹木で、日本には明治時代に渡来しました。暑い夏に淡い紫色の花は、見るものに清涼感を与えてくれます。ニンジンボクの名は、中国産のニンジンボクの葉が朝鮮人参（オタネニンジン）の葉と似ていることから名づけられ、中国産のニンジンボクと同じ仲間であることから、姿形は似ていませんが、西洋のニンジンボクの名がつけられました。

セイヨウニンジンボク

花と緑の振興センターでは様々な研修を行っています

花と緑の振興センターで実施している様々な研修・講座の概要を紹介します。

●緑化講座

県民を対象に、花植木類の普及拡大を目的とした講座です。樹木管理などの一般向け講座から、夏休みに開催する「植物を使った工作教室」まで、幅広い講座を開催しています。

●花植木専門研修/園芸指導者養成講座

花き・植木類の生産者や公園管理者、小売店等を対象とした講座です。内容も、病害虫や販売など、リクエストに応じて幅広く実施しています。

●造園技術研修

造園関連業務に従事し、造園技能検定試験（厚生労働省・職業能力開発促進法）の受験を目指す方を対象に、実技試験対策の実習の勉強を行います。

●街の緑サポーター養成研修

緑化ボランティアを志す県民を対象とする研修です。

緑化講座の様子（安行四季彩マットの作成）

造園技術研修の様子（課題庭園の製作）

★庁舎リニューアル：本館トイレの洋式化、自然池の排水改修工事が進み、皆様がより快適に利用できる施設に生まれ変わります。

Information

花とみどり

平成28年2月18日発行

発行所／埼玉県花と緑の振興センター
発行人／埼玉県花と緑の振興センター　所長　落合 正宏

TEL：048-295-1806　FAX：048-290-1012
HP　http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html
E-mail　h951806@pref.saitama.lg.jp

環境にやさしいベジタブルインクと、再生紙を使用しています。